

令和2年4月14日
国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構

民間競争入札実施事業
国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構広報普及業務支援の実施状況について（案）
（平成30年度及び平成31年度）

1. 事業の概要

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（以下「機構」という。）の広報普及業務支援については、「競争の導入による公共サービスの改革に関する法律」（平成18年法律第51号）に基づき、以下の内容により平成30年4月から民間競争入札により実施しており、現在実施している事業は2期目である。

（1）業務内容

本事業は、機構の事業及び宇宙航空分野全般に亘る広報普及活動を、国内外の幅広い層に対し、効率的、効果的かつ積極的に実施し、総合的かつ一体性をもって戦略的に推進するために必要な支援を行うものである。

（2）契約期間

平成30年4月1日から令和3年3月31日までの3年間

（3）受託事業者

株式会社ADKマーケティング・ソリューションズ

（会社再編に伴い、平成31年1月1日より株式会社株式会社アサツー・ディ・ケイから当該業務を引き継いだため変更）

（4）受託事業者決定の経緯

民間競争入札実施要項に基づき、平成30年1月24日の提出期限までに入札参加者2者から履行証明書の提出を受け、審査した結果、入札参加要件を満たしていたため、平成30年2月9日に機構内に設置する技術評価専門部会において提案書の技術評価を実施した。

平成30年2月14日に開札した結果、いずれも予定価格の制限の範囲内であったことから、技術評価点及び入札価格点の合計が最も高い株式会社アサツー・ディ・ケイ（現 株式会社ADKマーケティング・ソリューションズ）を落札者として決定した。

2. 確保されるべきサービスの質の達成状況及び評価

民間競争入札実施要項において定めた民間事業者が確保すべきサービスの質の達成状況に対する当機構の評価は、以下のとおり。

(1) 実施要項に定めた業務の実施

ア. 広報普及業務支援の全体運用管理・業務項目間連携による総合コーディネートの実施

実施要項の記載	主な実施事項	評価
<p>○実施業務の全体運用管理、進捗管理のみならず、JAXAの広報事業計画等に基づき、本契約における業務項目それぞれの特徴を発揮するとともに、業務項目それぞれの連動性や相乗効果を生むために、広報普及業務全体を俯瞰的かつ横断的な視点で見渡す「総合コーディネート」の機能を果たすこと。また、万が一の危機管理対応事案が発生した際にはその対応支援を行う。</p>	<p>○<u>総合コーディネートプランの整備・実行</u> 受託事業者が保有するノウハウに基づいた広報プラン「総合コーディネートプラン」の提案がなされ、変化の激しい情報トレンドに即応していく情報発信方法を策定する場として企画編集会議を適宜開催し、JAXA 広報部長及び受託事業者の責任者以下で議論することで活動内容のレビューとブラッシュアップを図った。</p>	<p>○提案されたプランに基づき、イベント、Web、印刷物などの情報発信ツールを連動させて横断的にハンドリングすることで多様な層に対して多角的に訴求することができた。 なお、危機管理対応事案はなかった。</p>

イ. 画像映像等における各種制作・運用の実施

実施要項の記載	主な実施事項	評価
<p>○画像映像等の外部貸出窓口及び画像映像提供システム「JAXA デジタルアーカイブス (JDA)」の運用 (提供時に必要な画像映像の編集、加工対応なども含む)</p>	<p>○<u>JAXA デジタルアーカイブス (JDA) の運用</u> JDA への画像・映像素材の新規登録、外部ユーザーからの利用申請の受付、利用許諾手続き等の運用を効率的に進めるため、月例の業務報告会を設け、課題の整理及び対応方策などの調整を継続的に行った。また、画像・映像素材を充実させるとともに、素材のカテゴリを分かりやすく整理し、サイトの利便性を向上させた。</p>	<p>○利便性向上によるユーザーからの使い方等の問合せ件数の減少や、許諾手続きの事務フロー見直しの結果、運用効率化が進み、受付窓口担当者の業務負荷の低減が図られた。 〔実績〕 ・窓口における電話対応件数 月平均 300 件から月平均 200 件に減少 ・不慣れなユーザーからの代理申請の依頼件数 月平均 20 件→7~8 件 ・月平均のアクセス数は 158, 224→165, 724 に増加 *上記いずれも平成 30 年度と 31 年度との比較</p>
<p>○広報用に行う開発試験等の業務記録撮影及び画像処理。</p>	<p>○<u>開発試験等の業務記録撮影及び画像処理</u> 高精細 4K カメラやアクションカメラなどの機材を用い、開発試験等の業務記録撮影及び画像処理を実施。</p>	<p>○高精細の 4K カメラやアクションカメラなどの機材を使い効果的なアングルでの撮影を行うことで、単なる業務記録にとどまらない広報用に付加価値の高い画像映像素材が取得できた。</p>
<p>○記者会見等の映像配信に係る技術支援。</p>	<p>○<u>記者会見等の映像配信に係る技術支援</u> 記者会見等のライブ中継をインターネット配信により実施。 〔実績〕 30 年 55 回、31 年度 42 回</p>	
<p>○画像・映像素材や映像コンテンツの制作・撮影、運用、保守管理の実施。</p>	<p>○<u>映像コンテンツの制作</u> 職員による講演会やシンポジウムなどのイベントにおいて機構のブランドイメージを伝えるためのショートムービー「未来をのぞこう」を制作。また、事業報告や開発成果を纏めた年間活動ビデオ (10 分程度)「JAXA Activity Report」を上期・下期分の 2 本を制作した。</p>	<p>○「ブランドイメージの向上」という従来にはなかった切り口での映像は、老若男女問わず全ての層に対してリーチできる質の映像となった。年間活動報告ビデオは、専門的な用語を排するなど、親しみやすさや理解増進を得られるようなものとなった。</p>

ウ. 公開ウェブサイト等の運用

実施要項の記載	主な実施事項	評価
<p>○JAXA 公開ウェブサイトの編集、運用管理を行う。日々の活動状況に合わせ、プレスリリースや Twitter や Facebook など SNS を使いタイムリーな情報発信を行う。</p> <p>○サーバの保守管理を行う。</p>	<p><u>○JAXA ウェブサイトの編集・運用管理</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報部以外の事業部門独自で運営するウェブサイトとの重複や齟齬が生じないよう情報整理を行い、効率的な情報発信を実施した。 ・Twitter や Facebook などの SNS の特性を活かし、適宜発信ツールを使い分け、ウェブサイト本体への効果的な誘導を図った。 <p>○サーバの保守管理を実施した。</p>	<p>○重複ページを削除するなど情報整理を行った結果、全体のページビュー数は減少したが、ユーザーに対しては効率的に目的のページへ誘導できるなどのアクセシビリティが向上した。また、ログ解析、SNS や CMS などの幅広いスキルの所有者を配置したことで即時性のある情報発信業務が保持できた。</p> <p>○特段問題はなかった。</p>

エ. 広報用パンフレット等印刷物の企画制作・運用

実施要項の記載	主な実施事項	評価
<p>○広報用パンフレット等印刷物全体の制作計画に関する企画立案を行い、それらに基づき新規制作・改定増刷を実施すること。</p> <p>○印刷物の在庫管理及び JAXA 内外への払い出しを行うこと。</p>	<p><u>○要覧（会社案内冊子）のリニューアルの実施</u></p> <p>JAXA の事業概要をまとめた「JAXA 要覧」のリニューアルを実施。その際、従来の日本語版、英語版の分冊で制作していたものを日英併記で 1 冊にまとめた。</p> <p><u>○印刷物等の管理・配送</u></p> <p>毎月 2 回、定期的に倉庫からの冊子等の払い出しを実施。</p>	<p>○イラストや CG を多用することで、視覚的に文章を補完することができ、専門的な事業活動についても親しみやすさや理解増進を得られるようなものとなった。</p> <p>○適切に実施されていた。</p>

オ. 各種イベント・展示の実施運用及び模型貸出対応

実施要項の記載	主な実施事項	評価
<p>○JAXA シンポジウムなど JAXA 主催のイベント・展示等の実施や外部機関との連携・協力イベント、展示会への出展支援を行う。</p>	<p>○<u>JAXA シンポジウムの運営支援</u> 機構の事業活動の報告の場として、毎年 1 回開催するシンポジウムの運営支援を行った。</p> <p>○<u>国際航空宇宙展 (ISTS) 2018 [福井] への広報ブース出展</u> 米国が構想する月近傍有人拠点 (Gateway) 計画における「JAXA の役割」をテーマにブースを構成。開発中の小型月着陸実証機「SLIM」の 1/2 模型の展示や月面を模した砂場で探査ローバーの走行デモンストレーションを実施。その他、技術職員のトークショーを行い、来場者との対話を通じた双方向コミュニケーションを意識した。</p>	<p>○「JAXA シンポジウム 2019」では、宇宙開発とサブカルチャーというパネルディスカッションのテーマに合わせ、パネリスト候補の提案があった。結果としてこれまで機構ではつながりのなかったサブカルチャーに関する第一人者がパネリストに入ることにより新しい客層が来場し、新規のファン獲得につながった。</p> <p>○展示会のテーマや来場者のニーズをしっかりと分析した上で、効果的な展示構成や手法についての企画提案がなされた。JAXA の活動や研究、関係部署の理解も進んでおり、今後、外部機関との連携強化、拡大に向けた取り組みに係る支援についてもより一層期待できる。</p>
<p>○展示品 (模型やパネル等) の倉庫管理及びそれらに関する外部貸出窓口業務を行う。</p>	<p>○<u>適切な展示品貸出及び保管管理の実施</u> 外部団体からの展示品貸出依頼に対する承認の審査過程を一部見直し、管理の強化を図った。</p>	<p>○展示品の貸出実績を定期的に確認・分析し、使用実績 (頻度) の少ない展示品については、外部からの利用申請時に目的に応じて展示品の紹介をすることで、幅広い展示品の活用が促進された。</p>

カ. 宇宙機等打上げ広報活動

実施要項の記載	主な実施事項	評価
<p>○人工衛星などの宇宙機及びロケット打ち上げにおいて、一般普及を目的とした各種印刷物、ビデオ等の製作及び打上げ放送並びに中継イベント等を実施すること。</p>	<p>○打上げライブ中継番組の制作およびインターネット配信</p> <p>CG映像を多用するなど、ミッション概要を分かりやすく伝える番組構成とするとともに、過去の配信時の視聴者行動（アクセス状況）を分析し、内容・放映時間の冗長化を避け、コンパクトにまとめることで、視聴者の興味の継続（継続視聴）に繋がった。また、海外衛星の打ち上げもあり、英語対応の番組制作を行った。</p> <p>[配信実績]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宇宙ステーション補給機 7 号機打上げ（H-2B ロケット） ・温室効果ガス観測技術衛星 2 号 / KhalifaSat (UAE) 打上げ（H-2A ロケット） ・革新的衛星技術実証 1 号機打上げ（イプシロンロケット） 	<p>○ネット配信を意識した番組作りに対し、十分なスキルを保有した人員体制で実施することができた。</p> <p>なお、深夜帯も含め、各中継においては平均して 10 万回の再生回数を獲得した。</p> <p>英語対応の番組制作の結果、海外からの視聴の割合が増加した。</p>

(2) JAXA シンポジウム 来場者満足度アンケート

調査：JAXA シンポジウムについては、シンポジウム会場で行うアンケートの結果、「内容」及び「満足度」について 6 割以上から上位 2 段階（「とても良い」、「良い」等）好評価を達成すること。

結果：JAXA シンポジウム 2018 及び 2019 の会場にて実施したアンケート調査の結果、以下の設問について上位 2 段階で 8 割以上の好評価を得た。

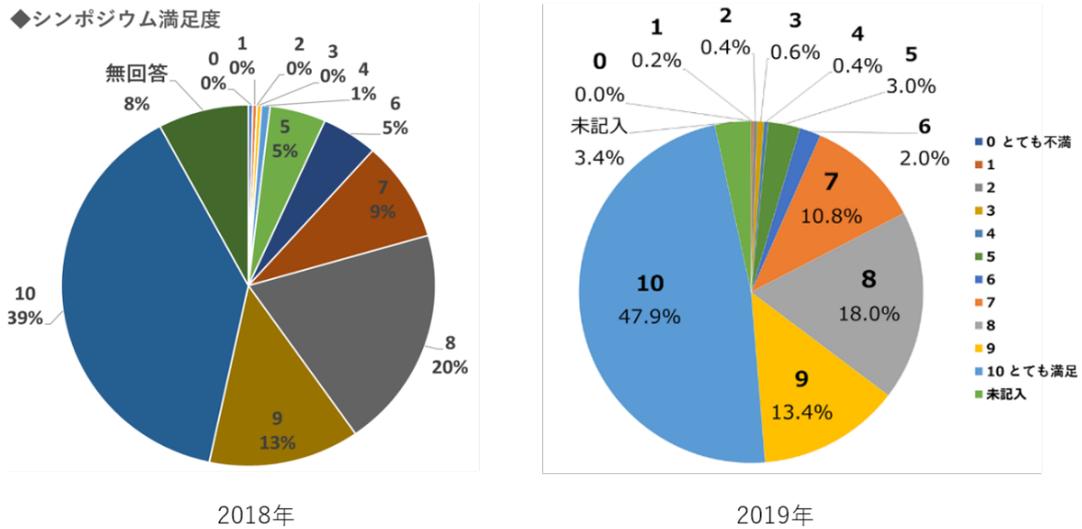
*シンポジウムの内容に対する満足度評価は 0～10 までの 11 段階評価とした。

不満～とても不満（0～3） / 普通（4～6） / 満足～とても満足（7～10）

このうち、「満足（7）～とても満足（10）」の合計。

設 問	上位評価 (7～10 点)	対象者数	回答数	回答率
「JAXA シンポジウム 2018」	81%	481 名	268 名	56%
「JAXA シンポジウム 2019」	90%	590 名	501 名	85%

【選択肢ごとの割合】



なお、会場からはニコニコ生放送によりライブ中継を実施。また、翌日以降に YouTube でも動画を公開した。ライブ中継の視聴数および翌日の動画の再生回数は以下の通り。

①2018年 約 12,000 件 ②2019年 約 24,130 件

ニコニコ生放送は視聴者アンケートの結果として 2018 年は 85%、2019 年は 88.9%の視聴者が「とても良かった」と回答したとの情報提供があった。

(3) ウェブ利用者 満足度アンケート結果 (オンラインアンケート)

調査：ウェブサイトの運用について、モニター調査を実施し、①ウェブサイトのわかりやすさ、②レイアウトの評価、③知りたい情報が得られるかの質問を設け、上位 2 段階で 6 割以上（「とてもわかりやすい」「わかりやすい」等）の好評価を達成すること。

結果：2020 年 2 月 14 日（金）から 3 月 6 日（金）まで実施。対象となるすべての設問について 6 割以上の好評価を達成した。（回答者数は 201 名）

* 選択肢の段階は①「とてもわかりにくい（探しにくい）」②「わかりにくい（探しにくい）」③「普通」④「わかりやすい（探しやすい）」⑤「とてもわかりやすい（探しやすい）」の 5 段階。

設 問	①	②	③	④	⑤	④⑤合計
サイト内容のわかりやすさ。	0.5%	6.0%	16.9%	54.2%	22.4%	76.6%
デザイン・レイアウトのわかりやすさ。	1.5%	5.5%	19.9%	49.3%	23.9%	73.2%
サイト内の情報の探しやすさ。	2.5%	15.5%	22.0%	31.5%	28.5%	60.0%

3. 実施経費の状況及び評価（※金額は全て税抜）

下表の通り。

単位：千円

	市場化テスト実施以前 (FY26)	現在の契約 (FY30)	現在の契約 (FY31)	FY30, 31 の平均
経費実績	241, 204	157, 043	110, 716	133, 879
別契約化金額※		7, 510	41, 995	
合計	241, 204	164, 553	152, 710	158, 631

※比較のため、市場化テスト実施に向け民間事業者の新規参入ハードルを下げることが目的として本契約から外して別契約化したイベント実施支援等一部作業について、当該別契約の契約金額を FY30, 31 の本契約の経費実績に加えている。

業務の見直し（各種画像等のアーカイブシステムへの登録数の半減、画像利用状況調査の終了、メールマガジン企画・配信作業の終了、印刷物の削減など）、打上げ機数の違い、また平成 26 年度と平成 30, 31 年度の実施業者が異なることから単純比較はできないが、市場化テスト実施前（平成 26 年度）の実施経費と比較すると、平成 30～31 年度の 1 年あたりの平均額では 82, 573 千円（34. 2%）の経費の減少となった。

4. 民間事業者からの改善提案による改善実施事項等

広報普及活動全般について、より良い運用やサービスに関する改善提案があり、業務の質向上及び効率化につながっている。具体的な事例は、以下のとおり。

(1) イメージ映像「未来をのぞこう」の制作

単なる事業紹介ではなく、機構の「ブランドイメージ」を高めるためのショートイメージムービーを提案、制作した。内容が特定の事業（開発・研究等）に限定されるものではないため、各種広報イベントや役職員による講演会、シンポジウム等で放映するなど、年間を通じて幅広く活用されている。

(2) 第32回宇宙技術および科学の国際シンポジウム（ISTS）福井大会におけるブース出展

従来はパネル展示のみとしていたが、改善策として、「月面探査ローバーによる模擬月面走行デモンストレーション」の実施が提案された。その結果多くの来場者がデモンストレーションに足を止め、開発担当者の説明に耳を傾けた。なお、来場者は3, 000人であり、満足度としては、来場者アンケート（7段階）で、上位2段階の「とても満足・満足」で、83%の好評価を得た。（出展期間：2019年6月15日～19日の5日間）

5. 今後の事業

(1) 本事業の市場化テストは 2 期目であり、事業全体を通じた実施状況は以下のとおりである。

- ①実施期間中に当該民間事業者が業務改善指示等を受ける、もしくは業務に係る法令違反行為等を行った事案は無かった。
- ②機構には、監事及び外部有識者（公認会計士、弁護士等）で構成され、契約の点検・

見直し等を行う「契約監視委員会」が設置されており、その枠組みの中で実施状況報告のチェックを受ける体制が整っている。

- ③本事業入札においては、新たに応札した事業者を含め、2者からの応札があり、競争性は確保されていた。
- ④確保されるサービスの質に係る達成目標について、目標を達成している。
- ⑤市場化テスト導入前と比較し、過去、年間複数回実施していた大規模な海外展示の企画運營業務を本契約から除外し、別途競争入札としたことや、出展する国内イベントの内容の見直し、また、すべての事業項目において経費削減や業務実施取り止めに取り組んだ結果、年間で82,573千円（▲34.2%）の経費節減効果があった。

(2) 上述のとおり、全体において良好な実施結果を得られていることから、次期事業においては「市場化テスト終了プロセス及び新プロセス運用に関する指針」（平成31年3月8日官民競争入札等監理委員会決定）に基づき、市場化テストを終了し、当機構の責任において実施したい。

(3) 市場化テスト終了後においても、これまで官民競争入札等監理委員会における審議を通じて厳密にチェックされてきた公共サービスの質、実施期間、入札参加資格、入札手続き及び情報開示に関する事項等を踏まえた上で、契約監視委員会等、第三者のチェック機能を維持し、引き続き法の趣旨に基づきサービスの質の向上、コストの削減等を図る努力をしてまいりたい。

以上